

令和8年度交流研究員受入れ課題

課題名及び概要	使用可能な機器等	担当部課室
<p>○衛星画像等を用いた地図記号の更新に関する研究</p> <p>リモートセンシング分野において、衛星画像・空中写真・航空レーザ測量成果等から国土の状況を把握する技術に関する研究が進められている。</p> <p>本研究では、光学衛星画像等を解析し、その結果を活用して電子国土基本図（地図情報）の植生記号など、土地利用に関する情報を効率的に更新する手法を検討する。</p> <p>交流研究員として本研究に携わることにより、光学衛星画像や空中写真を用いた画像解析や機械学習モデルを用いた画像判読等に関する技術の習得が期待される。</p>	PC、関連ソフトウェア、各種地理空間情報等	<p>基本図情報部 地図情報技術開発室</p> <p>① 最大2か月間 ② 10～12月 ③ 1名</p>
<p>○3次元電子国土基本図の建物高さデータに関する研究</p> <p>令和8年3月末に刊行を予定している3次元電子国土基本図には、建物の高さに関して6種類の属性情報が付与される予定である。</p> <p>本研究では、3次元電子国土基本図における高さデータと建物形状や周辺植生環境との関係性を調査し、各種高さデータが示す値の意味を考察する。また、3次元電子国土基本図の活用方法を検討し、ユースケース開発を行う。</p> <p>交流研究員として本研究に携わることにより、三次元点群データの処理手法や点群データを利用した地図作成等に関する技術の習得が期待される。</p>	PC、関連ソフトウェア、各種地理空間情報等	<p>基本図情報部 地図情報技術開発室</p> <p>① 最大2か月間 ② 5～7月 ③ 1名</p>
<p>○AI技術を活用した斜面崩壊箇所判読ツールの効果的な運用方法に関する研究</p> <p>国土地理院は、豪雨や地震に伴う斜面崩壊発生時に、災害対応として空中写真判読により、斜面崩壊・堆積分布図を作成しているが、その効率化・高度化を図るため、AI技術を活用した斜面崩壊箇所判読ツールを構築している。</p> <p>本ツールに搭載されているAIは、一定の精度以上の成果が得られるよう学習されているが、使用する空中写真の撮影条件や土地被覆の状態などによる誤検出が生じ得るため、それらを低減するためのパラメータの変更機能やフィルタリング・マスキング</p>	AI搭載斜面崩壊箇所判読ツール、PC、GIS、空中写真画像データ	<p>応用地理部 地理調査課</p> <p>①最大2か月間 ②7～8月 ③1名</p>

<p>処理機能を実装している。</p> <p>本研究では、誤検出が発生しやすい条件や、誤検出を低減するための効果的なパラメータやフィルタリング・マスキング処理方法を検討する。また、斜面崩壊発生時に限らず、既存の崩壊箇所のアーカイブ整備の実現性及び整備方法を検討するため、最新の空中写真タイル画像に対してツールを適用し、崩壊地点の検出性能を評価する。</p> <p>交流研究員として本研究に携わることにより、今後利用の拡大が想定されるAI技術に触れることができるとともに、実際にそれを用いたデータ作成や災害対応での活用に関する知見の習得が期待される。</p>		
--	--	--

<連絡事項>

1. 担当部課室

①②③は、受入れを担当する部課室の希望期間等です。申請いただいた課題によっては、調整させていただく場合がございますので、あらかじめ御了承願います。

①受入れ希望期間

②受入れ希望時期

③同期間内の受入れ可能人数

2. 受入れの選考

受入れ申請書に基づく書類審査で選考させていただきます。よって、応募多数の場合等、受入れ申請機関の御希望に添えない場合がございますので、あらかじめ御了承願います。